

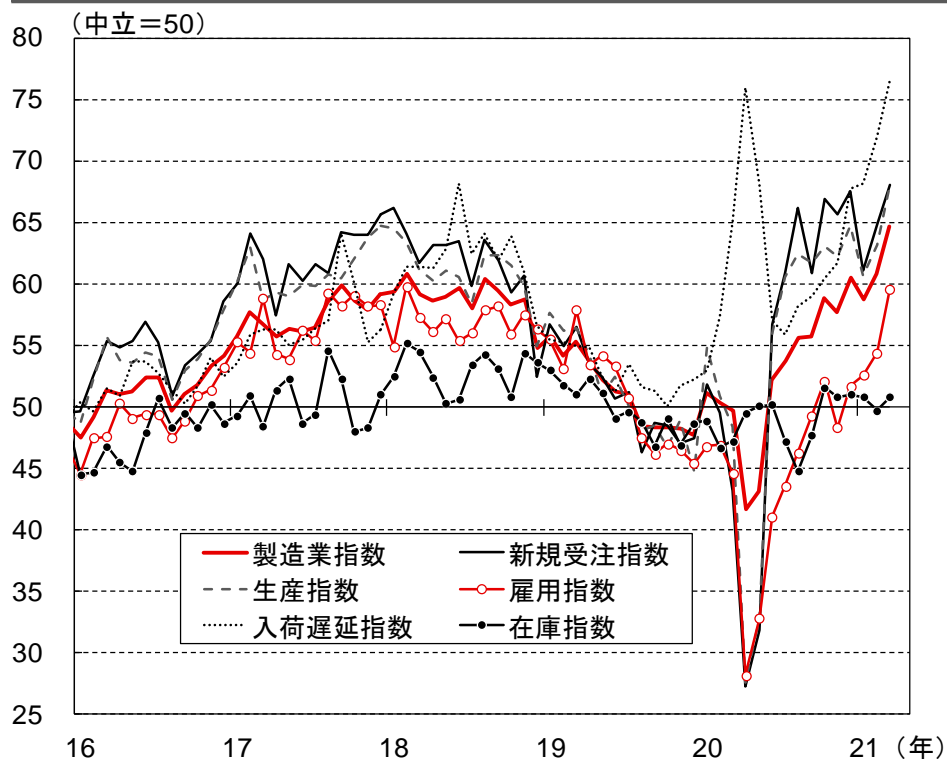
米国経済・金融概況 (2021年4月)

2021年4月15日
経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

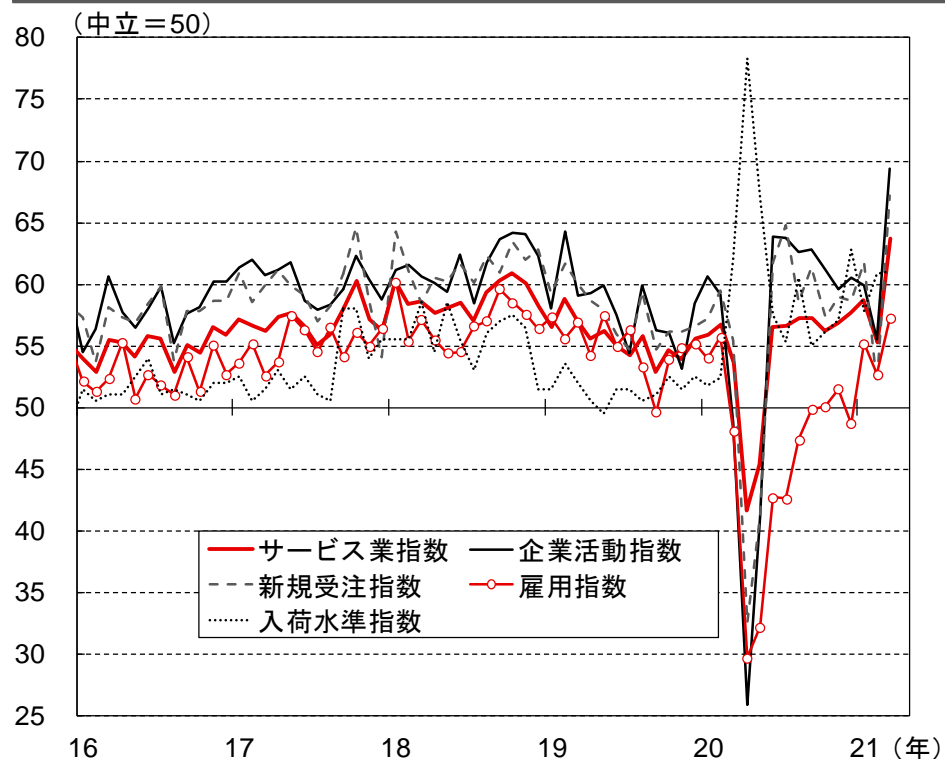
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数は、3月に64.7と拡大と縮小の境目である50を10ヵ月連続で上回り、前月比+3.9上昇。指数の構成項目をみると、新規受注指数は68.0(同+3.2)、生産指数は68.1(同+4.9)、雇用指数は59.6(同+5.2)、入荷遅延指数は76.6(同+4.6)、「在庫指数」は50.8(同+1.1)と揃って上昇。産業別にみると、18産業のうち17産業が前月から活動の拡大を報告し、1産業(木製品)が横這いと報告。
- 3月のISMサービス業指数は前月比+8.4の63.7と、拡大と縮小の境目である50を10ヵ月連続で上回り、現行統計開始(2008年1月)以降最も高い水準に。指数の構成項目をみると、企業活動指数は69.4(同+13.9)、新規受注指数は67.2(同+15.3)、雇用指数は57.2(同+4.5)、入荷水準指数は61.0(同+0.2)と揃って上昇。産業別にみると、全18産業が前月から活動の拡大を報告(2月は17産業が拡大、1産業が縮小を報告)。経済活動制限が段階的に解除されるなか、ペントアップ需要の顕在化なども指数上昇に寄与している模様。

ISM製造業指数の推移



(資料) 全米供給管理協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

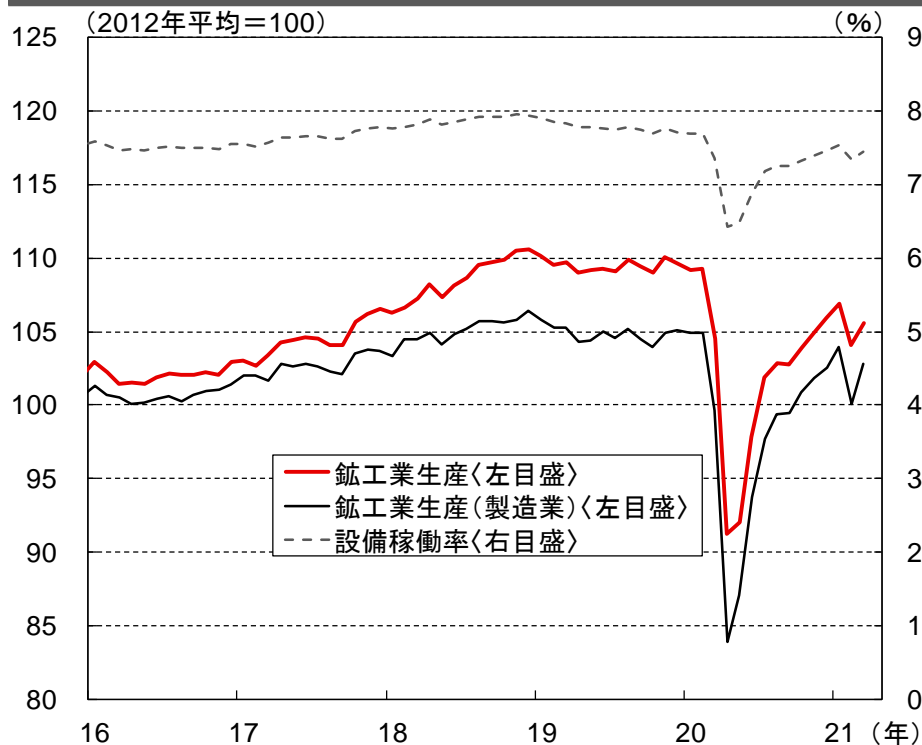


(資料) 全米供給管理協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

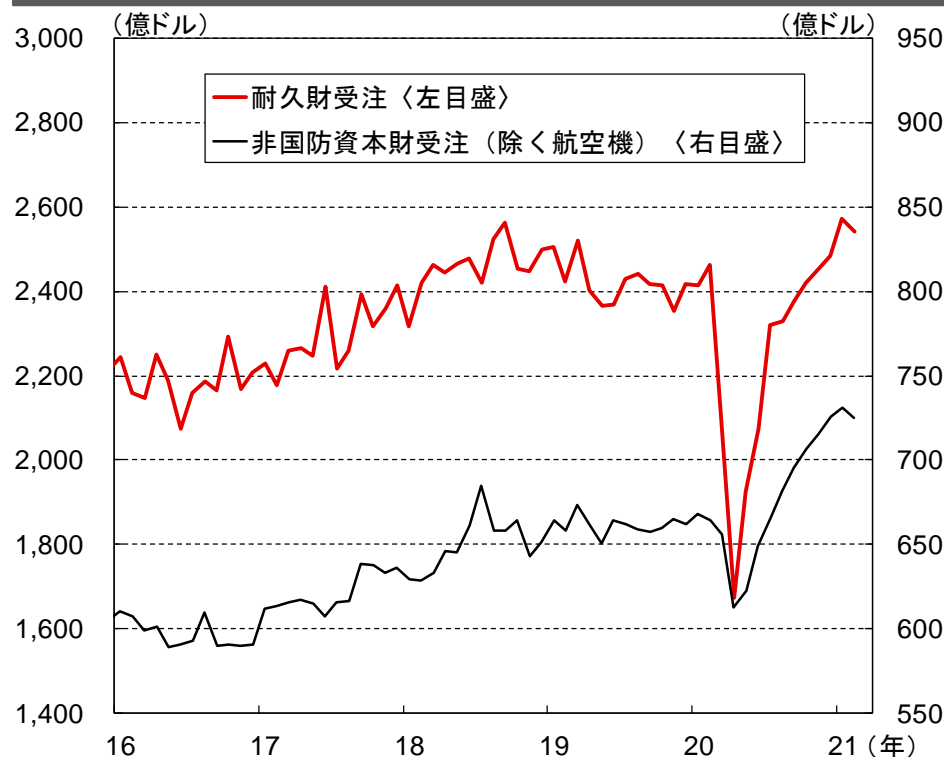
- 3月の鉱工業生産は前月比+1.4%と、2ヵ月ぶりに増加(2月:同▲2.6%)。内訳をみると、「公益事業」は同▲11.4%と減少した一方、「鉱業」は同+5.7%、「製造業」は同+2.7%と夫々増加。公益事業は寒波による暖房需要の増加で2月に大幅に増加しており、3月はその反動が現れた。3月の設備稼働率は74.4%と前月から+1.0%ポイント上昇。
- 2月の耐久財受注は前月比▲1.2%と10ヵ月ぶりに減少(1月:同+3.6%)。内訳をみると、増加したのは「電機・家電」のみであり、「一次金属」、「加工金属」、「輸送用機器」、「機械」、「コンピュータ・電子機器」、「家具」は揃って減少。設備投資の先行指標とされる非国防資本財受注(除く航空機)は2月に同▲0.9%と、同じく10ヵ月ぶりに減少(1月:同+0.7%)。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

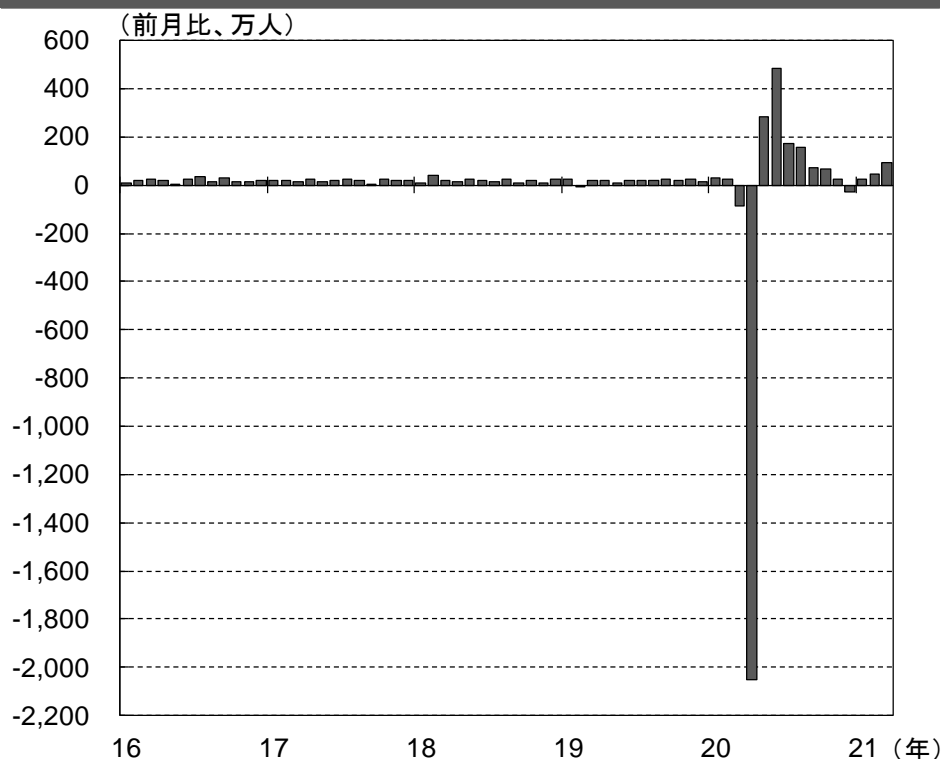


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

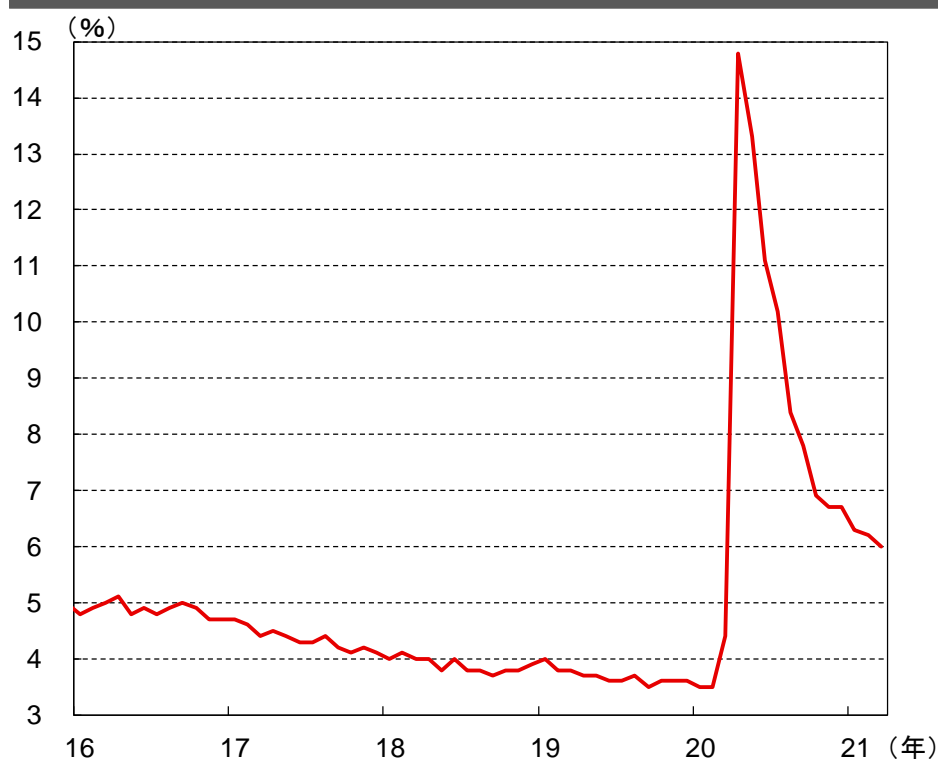
- 3月の非農業部門雇用者数は前月比+91.6万人と3ヵ月連続で増加し、2月(同+46.8万人)から伸びが加速。
- 業種別にみると、パンデミックによる悪影響を最も受けてきた「レジャー・飲食」が同+28.0万人と2月(同+38.4万人)に続き大幅に増加したほか、「政府」(同+13.6万人)、「建設業」(同+11.0万人)、「教育・医療・社会扶助」(同+10.1万人)なども堅調に増加。
- 3月の失業率は6.0%と2月(6.2%)から低下し、労働参加率は61.5%と2月(61.4%)から小幅に上昇。3月の時間当たり平均賃金(民間部門)は、前月比では▲0.1%低下(2月:同+0.3%)、前年比では+4.2%上昇(2月:同+5.2%)。

非農業部門雇用者数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

失業率の推移

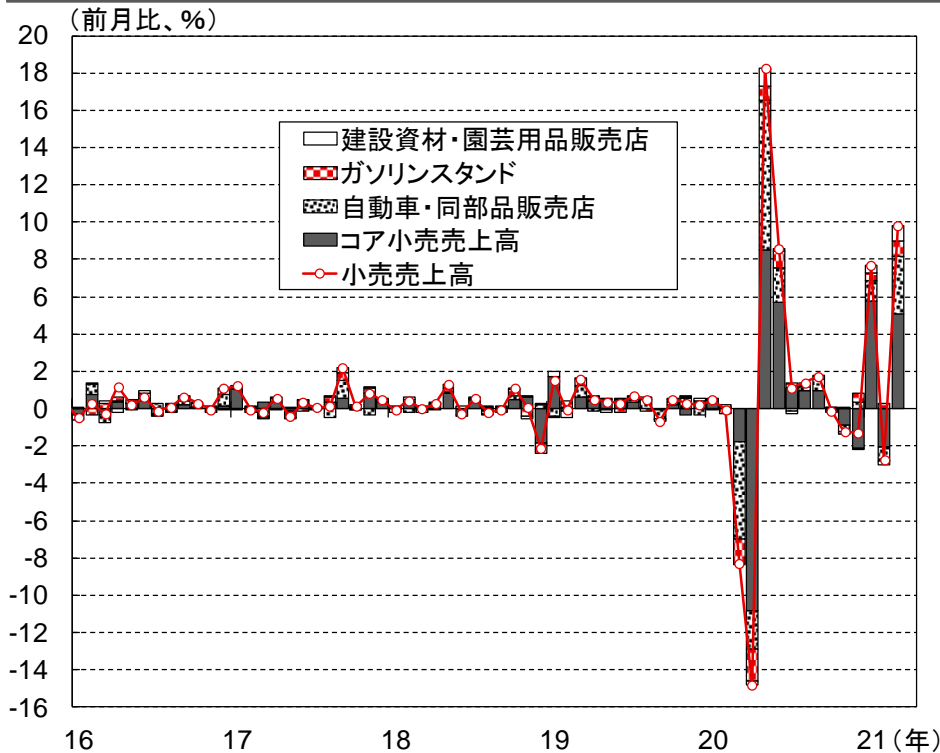


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

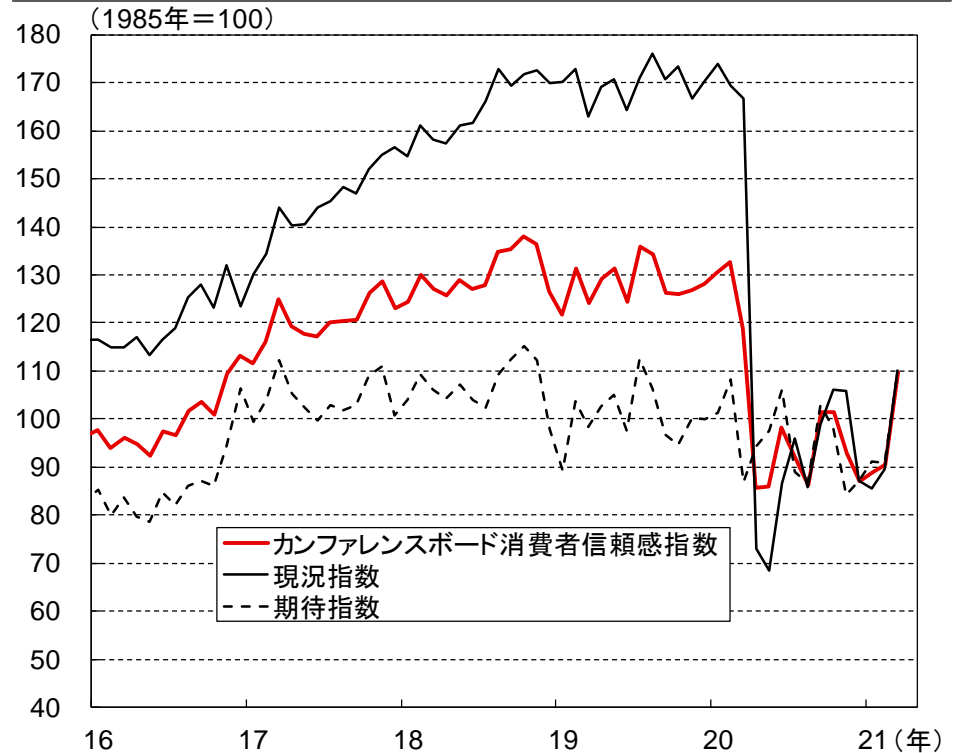
- 3月の小売売上高は前月比+9.8%と2カ月ぶりに増加(2月:同▲2.7%)。業種別にみると、全てで増加したが、特に増加率が大きかったのは「スポーツ用品店等」(同+23.5%)、「衣服販売店」(同+18.3%)、「自動車・同部品販売店」(同+15.1%)。コロナ禍の悪影響が大きかった「飲食店」も増加し(同+13.4%)、パンデミック前(昨年2月)と比べた減少率は▲4.8%まで縮小。
- 3月のカンファレンスボード消費者信頼感指数は109.7と前月比+19.3上昇し、1年ぶりの高水準を記録。内訳をみると、現況指数は110(同+20.4)、期待指数は109.6(同+18.7)と夫々上昇。現況指数・期待指数共に、「ビジネス環境」と「雇用」に関する見方の改善が上昇に寄与。消費者信頼感指数が改善するなか消費者のインフレ予想もこのところ高まっているが、調査責任者のフランコ氏は「インフレへの懸念が将来の消費抑制に繋がる可能性がある」等と言及。

小売売上高の推移



(資料) 米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

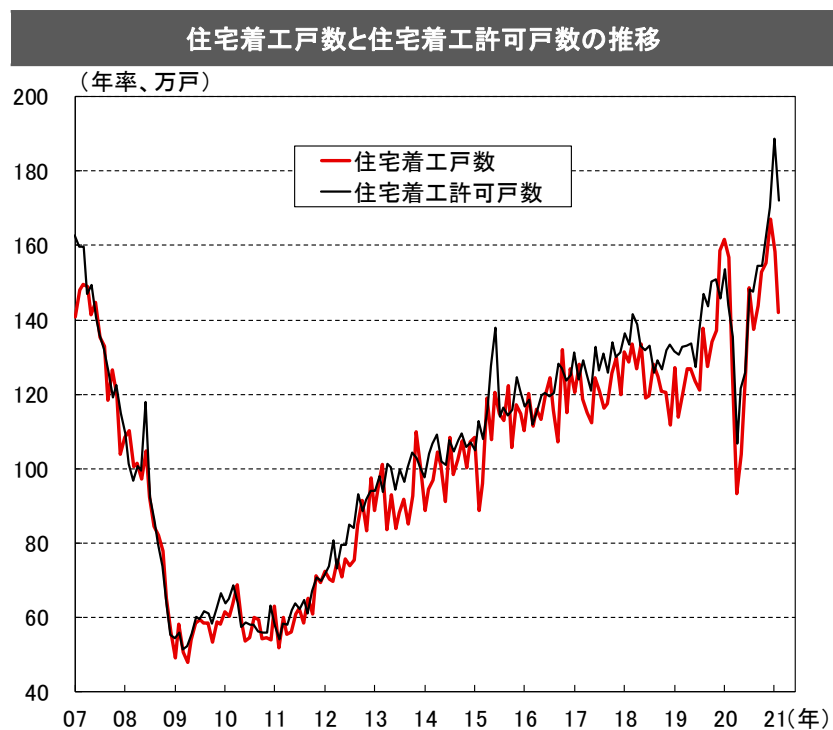
消費者信頼感指数の推移



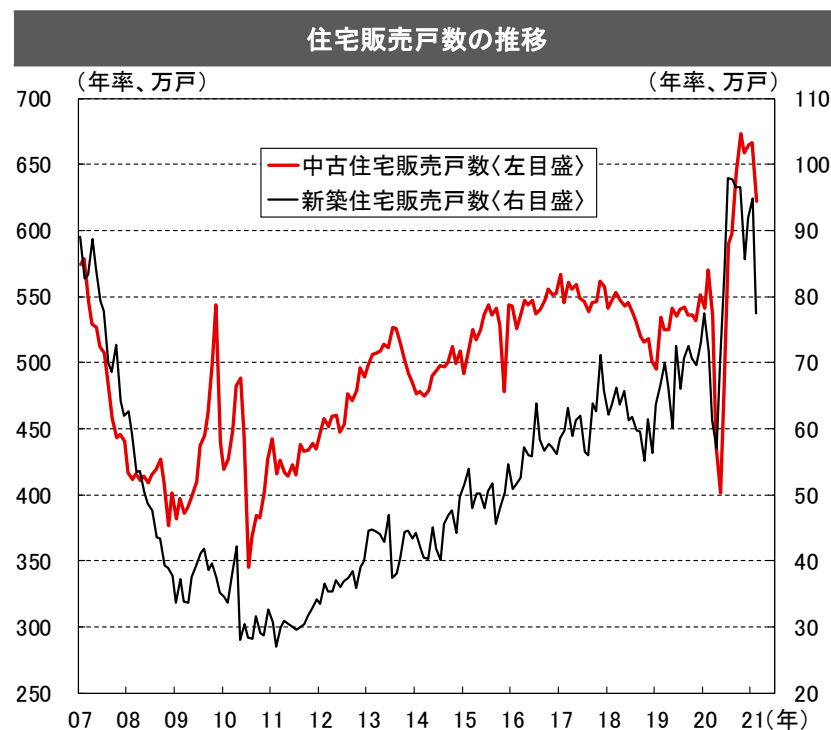
(資料) カンファレンスボード統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

- 2月の住宅着工戸数は前月比▲10.3%の年率142.1万戸(季節調整済)と、2ヵ月連続で減少(1月:同▲5.1%)。内訳をみると、一戸建住宅は同▲8.5%、変動の大きい集合住宅(2世帯以上)は同▲15.0%と夫々減少。着工戸数の先行指標である住宅着工許可戸数は同▲8.8%の年率172.0万戸と4ヵ月ぶりに減少(1月:同+10.7%)。
- 住宅販売について、全体の9割程度を占める中古住宅販売戸数は2月に前月比▲6.6%の年率622.0万戸(季節調整済)と3ヵ月ぶりに減少。在庫率は2.0ヵ月(季節調整済)と1月(2.1ヵ月)から低下。販売価格(中央値)は313,000ドル(季節調整前)と前年比+15.8%上昇し、1月(同+14.0%)から上昇ペースが加速。
- 新築住宅販売戸数は2月に前月比▲18.2%の年率77.5万戸(季節調整済)と、3ヵ月ぶりに減少(1月:同+3.2%)。在庫率は4.8ヵ月(季節調整済)と3ヵ月ぶりに上昇(1月:3.8ヵ月)。販売価格(中央値)は349,400ドル(季節調整前)と前年比+5.3%上昇し、1月(同+7.4%)から上昇ペースが減速。
- 2月に住宅着工・販売戸数が減少した背景として考えられるのは、「悪天候」、「低水準の住宅在庫」、「割高な住宅価格」、「住宅ローン金利の上昇」など。



(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

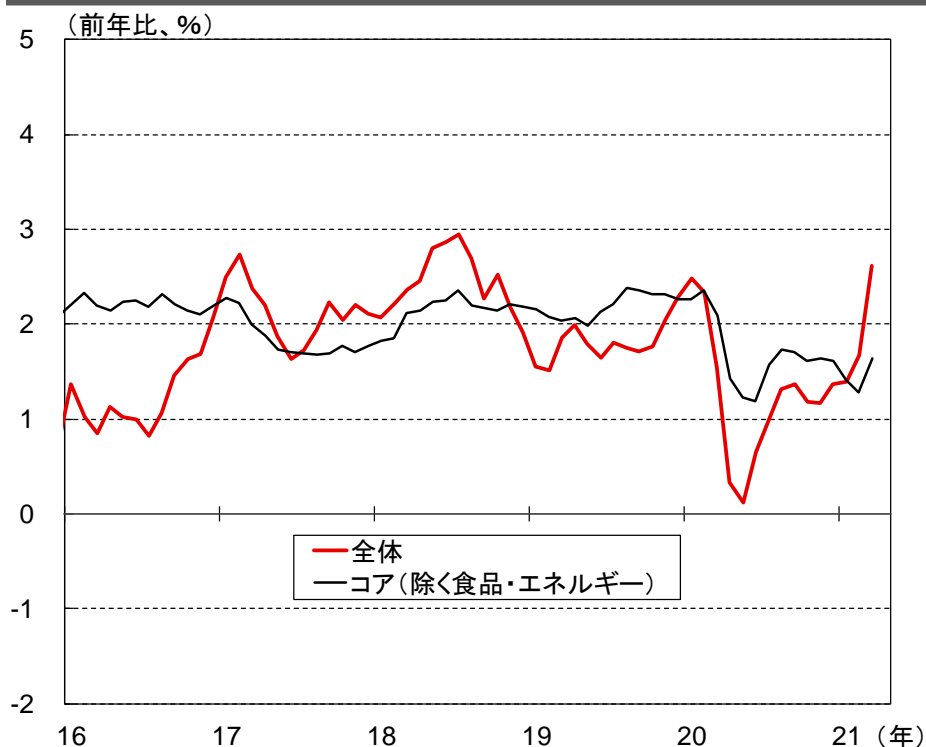


(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

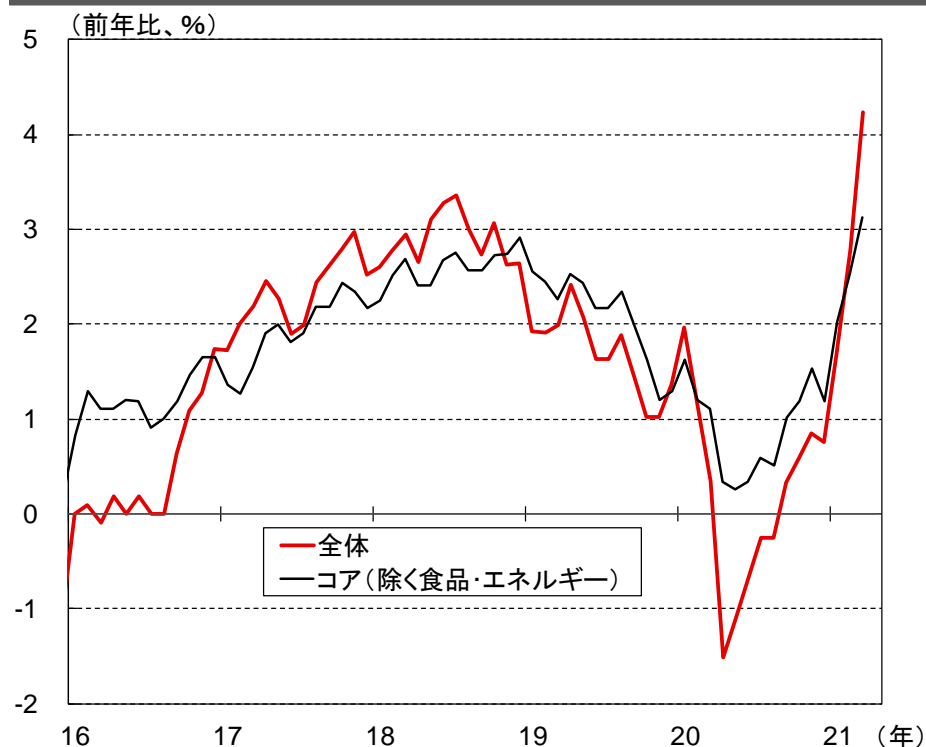
- 3月の消費者物価指数は前月比+0.6%（2月：同+0.4%）となり、2012年8月以来の高い伸びを記録。前年比でも+2.6%と、2月（同+1.7%）から上昇ペースが加速。前年比の内訳をみると、「食品」（同+3.5%）や「医療サービス」（同+2.7%）は2月から上昇ペースが減速した一方、「エネルギー」（同+13.2%）は大きく加速。「食品」と「エネルギー」を除いたコア消費者物価指数は前月比では+0.3%（2月は同+0.1%）、前年比では+1.6%上昇（2月：同+1.3%）。
- 3月の生産者物価指数は前月比+1.0%と、2月（同+0.5%）から上昇ペースが加速。前年比では+4.2%となり2011年9月以来の高い伸びを記録（2月：同+2.8%）。前年比の内訳をみると、「エネルギー」（同+24.3%）の上昇ペースが大きく加速したほか、「輸送・倉庫」（同+2.2%）が上昇に転じ、「建設」（同+1.5%）は上昇ペースが加速。「食品」と「エネルギー」を除いたコア生産者物価指数も前月比では+0.7%（2月：同+0.2%）、前年比では+3.1%（2月：同+2.5%）と夫々伸びが加速。ワクチン接種の進展や行動制限の緩和などを受けて米国内の需要が強まる一方、サプライチェーン停滞などにより供給は制約を受けており、こうした状況が上昇率加速の一因となっている可能性。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

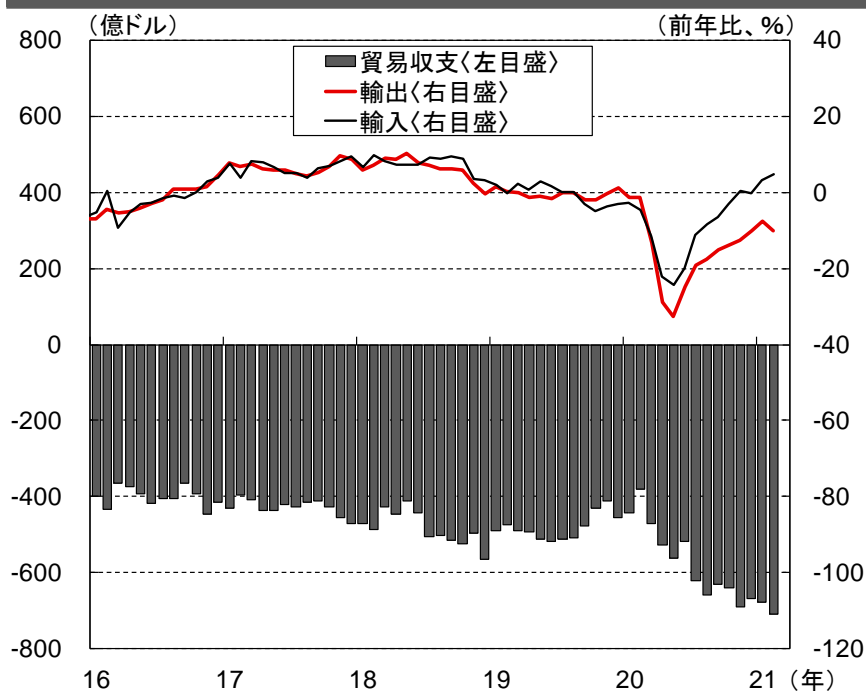
7. 国際収支

- 2月の貿易収支^(注1)(財・サービス)は711億ドルの赤字となり、赤字幅が前月比+4.8%拡大。財収支は880億ドルの赤字となり、赤字幅が同+3.3%拡大、サービス収支は169億ドルの黒字となり、黒字幅が同▲2.7%縮小。
- 輸出は同▲2.6%、輸入は同▲0.7%と夫々減少。財の輸出入を品目別にみると、輸出は「資本財」(同▲5.9%)、「消費財」(同▲5.8%)、「自動車」(同▲5.6%)などが大幅に減少。輸入は「工業資材」(同+8.2%)などが増加した一方、「自動車」(同▲10.7%)などが減少。
- 財の貿易収支を国・地域別にみると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める^(注2)中国との貿易赤字は2月に303億ドルとなり、赤字幅が前月比+11.3%(同+31億ドル)拡大。

(注1)貿易収支は国際収支ベース。但し、国・地域別内訳は通関ベース。

(注2)2020年の貿易赤字(財,通関ベース)は全体で9,050億ドル、うち対中国は3,108億ドル(全体の34%)。

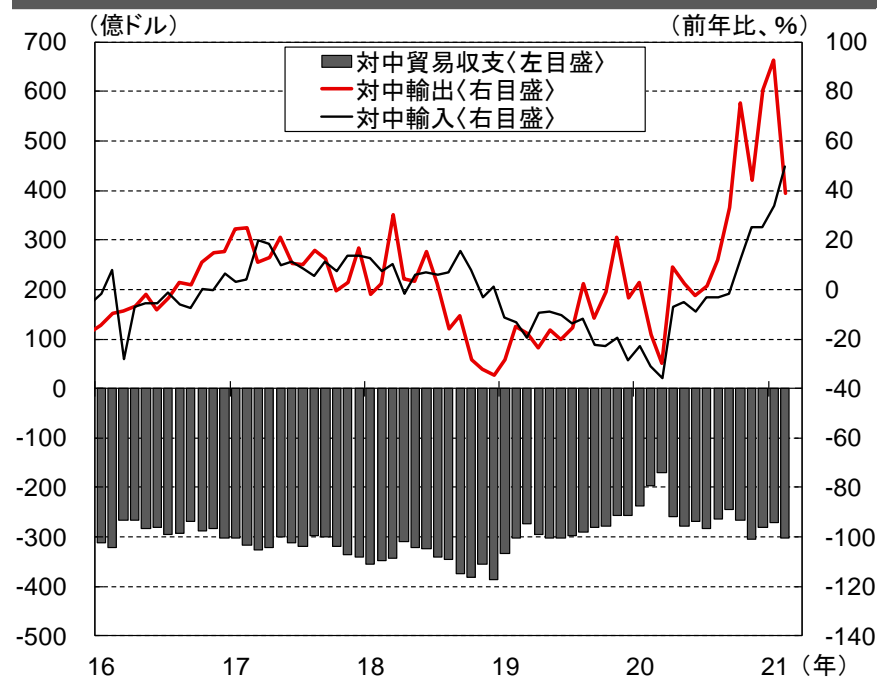
貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。

(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



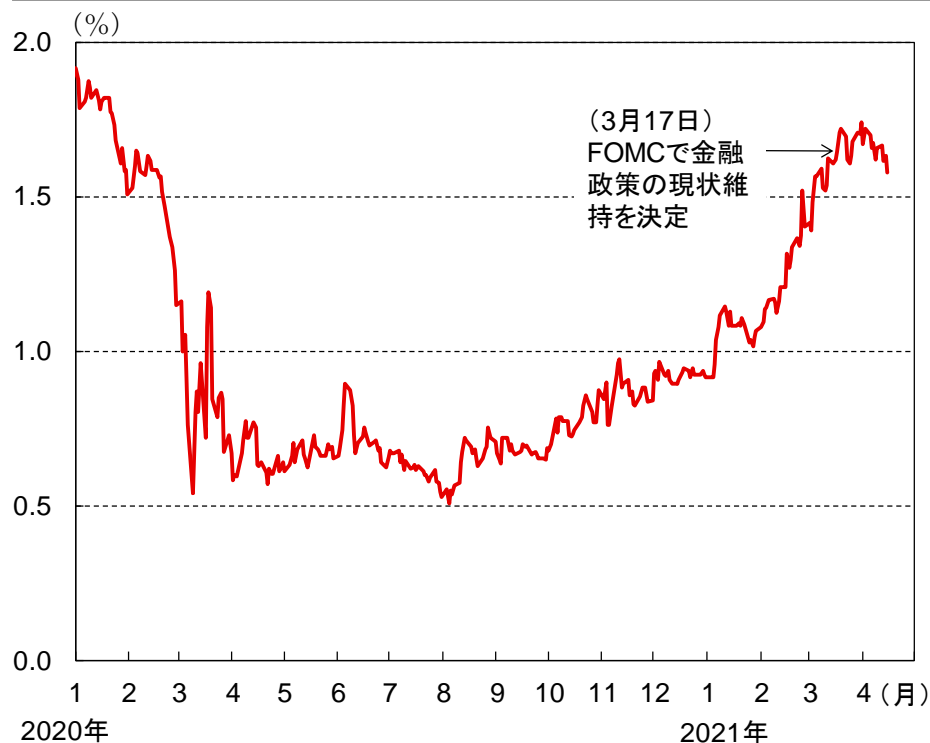
(注)通関ベース。

(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは景気回復期待などを背景に今年になってから上昇傾向で推移、3月末には1.7%半ばとなったが、その後は低下地合となり足元は1.5%台。
- ダウ平均株価は、4月初旬に発表された雇用統計、ISM製造業・サービス業指数が堅調な結果だったことや、長期金利が低下地合で推移したことなども好感し上昇基調で推移。

10年物国債利回りの推移



(資料) Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Bloombergより三菱UFJ銀行経済調査室作成

参考表: 主要月次経済指標の推移①

主要月次経済指標の推移

		20年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月
企業活動・生産	ISM 製造業指数	43.1	52.2	53.7	55.6	55.7	58.8	57.7	60.5	58.7	60.8	64.7
	ISMサービス業指数	45.4	56.5	56.6	57.2	57.2	56.2	56.8	57.7	58.7	55.3	63.7
	鉱工業生産指数(2012年平均=100)	92.1	97.8	101.9	102.9	102.8	103.9	104.8	105.9	106.9	104.1	105.6
	前月比(%)	0.9	6.2	4.2	1.0	▲0.1	1.1	0.9	1.0	0.9	▲2.6	1.4
	設備稼働率(%)	64.8	68.9	71.8	72.5	72.5	73.2	73.9	74.7	75.3	73.4	74.4
	製造業受注(億ドル)	4,117	4,382	4,669	4,698	4,759	4,822	4,883	4,963	5,097	5,057	-
	前月比(%)	7.7	6.4	6.5	0.6	1.3	1.3	1.3	1.6	2.7	▲0.8	-
	うち耐久財受注(億ドル)	1,926	2,075	2,319	2,329	2,378	2,421	2,452	2,483	2,572	2,541	-
前月比(%)	15.0	7.7	11.8	0.4	2.1	1.8	1.3	1.2	3.6	▲1.2	-	
雇用・個人消費	非農業部門雇用者数(前月比、万人)	283.3	484.6	172.6	158.3	71.6	68.0	26.4	▲30.6	23.3	46.8	91.6
	時間当たり平均賃金(ドル)	29.74	29.35	29.37	29.47	29.50	29.52	29.61	29.91	29.92	30.00	29.96
	前年比(%)	6.7	5.0	4.7	4.7	4.8	4.5	4.5	5.5	5.2	5.2	4.2
	失業率(%)	13.3	11.1	10.2	8.4	7.8	6.9	6.7	6.7	6.3	6.2	6.0
	個人所得(年率、億ドル)	202,461	200,327	201,739	196,243	197,622	196,287	193,863	194,913	214,622	199,456	-
	前月比(%)	▲4.0	▲1.1	0.7	▲2.7	0.7	▲0.7	▲1.2	0.5	10.1	▲7.1	-
	個人消費(年率、億ドル)	131,654	140,146	142,247	143,972	145,827	146,271	145,328	144,511	149,391	147,901	-
	前月比(%)	8.7	6.5	1.5	1.2	1.3	0.3	▲0.6	▲0.6	3.4	▲1.0	-
	貯蓄率(%)	24.7	19.0	18.4	14.6	14.1	13.1	12.5	13.5	19.8	13.6	-
	小売売上高(億ドル)	4,882	5,300	5,359	5,434	5,528	5,522	5,452	5,383	5,796	5,637	6,191
	前月比(%)	18.3	8.6	1.1	1.4	1.7	▲0.1	▲1.3	▲1.3	7.7	▲2.7	9.8
	自動車販売台数(年率、万台)	1,211	1,302	1,463	1,511	1,630	1,637	1,571	1,623	1,673	1,576	1,775
前月比(%)	38.9	7.5	12.3	3.3	7.9	0.4	▲4.0	3.3	3.1	▲5.8	12.6	
カンファレンスボード消費者信頼感指数	85.9	98.3	91.7	86.3	101.3	101.4	92.9	87.1	88.9	90.4	109.7	
ミシガン大学消費者信頼感指数	72.3	78.1	72.5	74.1	80.4	81.8	76.9	80.7	79.0	81.0	84.9	

(資料) 各種統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

参考表: 主要月次経済指標の推移②

主要月次経済指標の推移

		20年5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	21年1月	2月	3月
住宅	住宅着工戸数(年率、万戸)	104	127	149	137	144	153	155	167	158	142	-
	前月比(%)	11.1	21.9	17.5	▲7.7	4.7	6.5	1.5	7.5	▲5.1	▲10.3	-
	中古住宅販売戸数(年率、万戸)	401	477	590	597	644	673	659	665	666	622	-
	前月比(%)	▲8.2	19.0	23.7	1.2	7.9	4.5	▲2.1	0.9	0.2	▲6.6	-
物価	新築住宅販売戸数(年率、万戸)	70	84	98	98	97	97	86	92	95	78	-
	前月比(%)	22.5	20.3	16.5	▲0.2	▲1.2	0.0	▲11.2	7.2	3.2	▲18.2	-
	消費者物価指数(1982~84年=100)	256.4	257.8	259.1	259.9	260.3	260.4	260.2	260.5	261.6	263.0	264.9
	前月比(%)	▲0.1	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	0.2	0.2	0.3	0.4	0.6
国際収支	前年比(%)	0.1	0.6	1.0	1.3	1.4	1.2	1.2	1.4	1.4	1.7	2.6
	生産者物価指数(2009年11月=100)	117.3	117.7	118.4	118.5	118.7	119.5	119.3	119.3	121.0	121.7	123.1
	前月比(%)	0.4	0.3	0.5	0.2	0.3	0.6	0.0	0.3	1.3	0.5	1.0
	前年比(%)	▲1.1	▲0.7	▲0.3	▲0.3	0.3	0.6	0.8	0.8	1.7	2.8	4.2
国際収支	輸出(財、億ドル)	898	1,028	1,153	1,188	1,225	1,263	1,276	1,336	1,359	1,311	-
	輸入(財、億ドル)	1,665	1,753	1,969	2,033	2,039	2,082	2,145	2,177	2,211	2,191	-
	貿易収支(財、億ドル)	▲767	▲724	▲815	▲845	▲814	▲819	▲869	▲841	▲852	▲880	-
	貿易収支(財・サービス、億ドル)	▲563	▲518	▲621	▲661	▲632	▲640	▲690	▲670	▲678	▲711	-

(注)『消費者物価指数』とその『前年比』、『生産者物価指数』とその『前年比』は季節調整前。

(資料)各種統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当部はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : 岡田 知恵 e-mail : cokada-wighe@us.mufg.jp